

移動実態に関する調査結果

〔 生活者、旅行者 〕

令和 8 年 1 月
内閣府規制改革推進室

調査概要

生活者、旅行者の移動の実態を把握するため、内閣府において調査を実施。

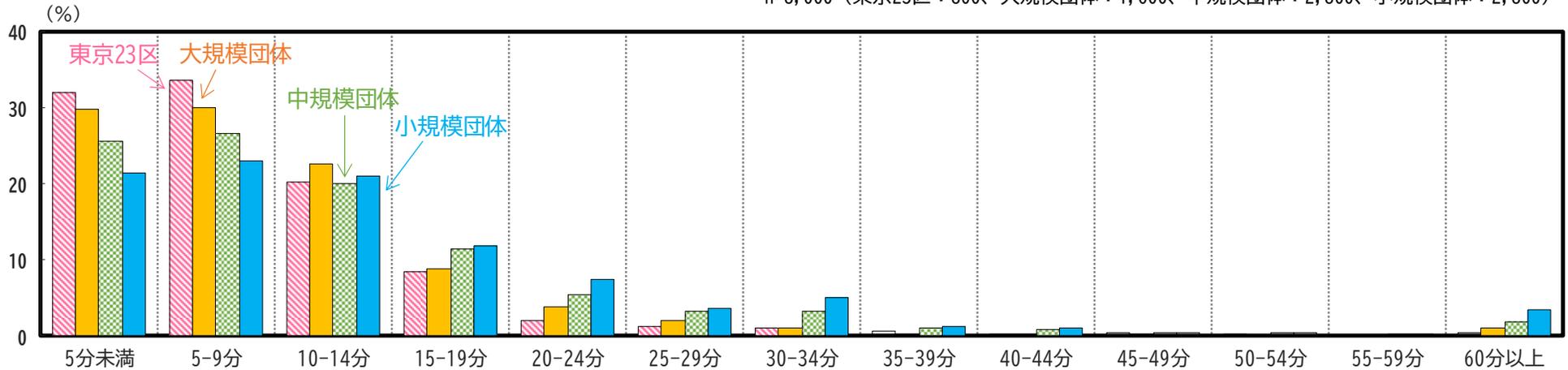
	対象地域	有効回答数	調査期間	調査方法
1 生活者	①大規模団体（人口100万人以上）11団体 ②中規模団体（人口20万人以上100万人未満）100団体 ③小規模団体（5万人以上20万人未満）383団体 ④東京23区	8,000件 (①1,600件、②2,800件、 ③2,800件、④800件)	令和7年9月12日（金） ～9月18日（木）	インターネットによるモニターアンケート調査を民間調査会社に委託
2 旅行者	47都道府県 (宿泊旅行統計調査（令和6年1月～12月）の都道府県別宿泊者数に基づく分布に応じた形で調査。)	8,000件	令和7年9月12日（金） ～9月16日（火）	

1 生活者アンケート結果

- 前回同様、最寄り駅までの徒歩での所要時間は、人口規模の大きい団体では10分未満で割合が高く、小さな団体では15分以上の割合が高い傾向（1図）。
- 前回同様、規模が小さくなるほど、自家用車保有割合が高い。中規模・小規模団体では個人保有が5割程度（2図）。

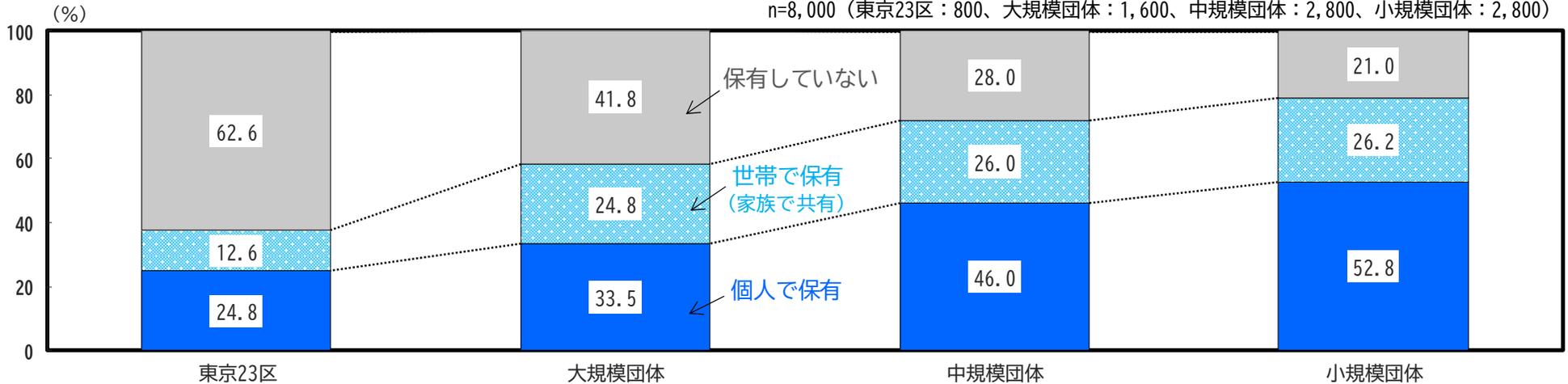
1図 最寄り駅までの徒歩での所要時間

n=8,000（東京23区：800、大規模団体：1,600、中規模団体：2,800、小規模団体：2,800）



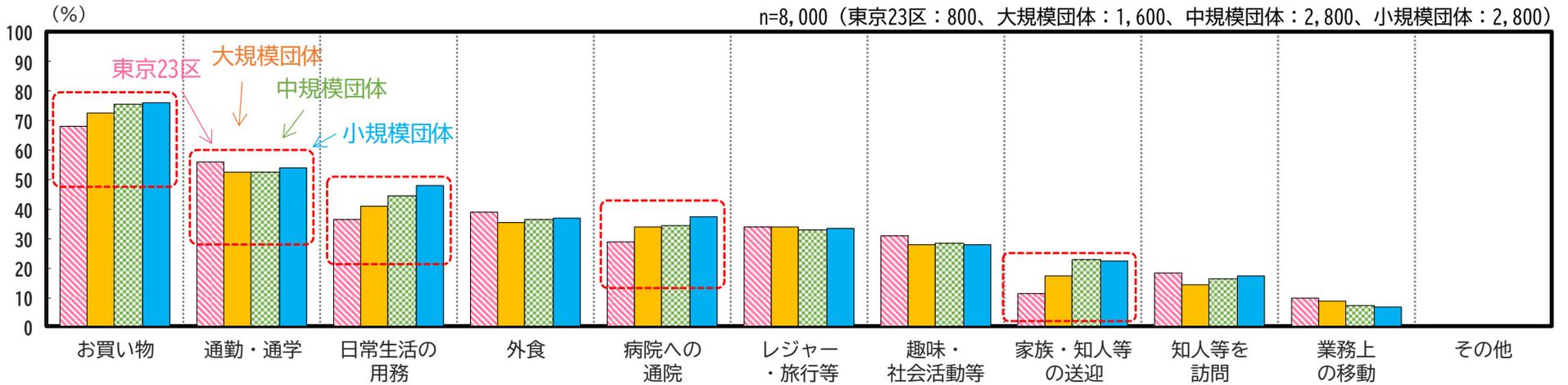
2図 自家用車の保有状況

n=8,000（東京23区：800、大規模団体：1,600、中規模団体：2,800、小規模団体：2,800）

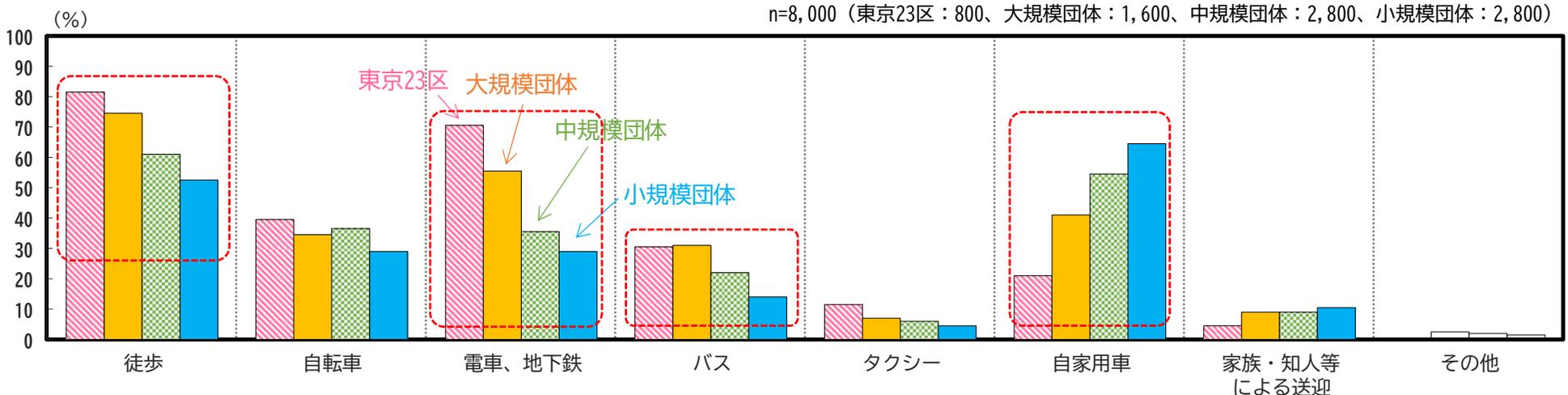


- 前回同様、日常生活での移動の主な目的は、いずれの規模の団体でも「お買い物」「通勤・通学」「日常生活の用務」で相対的に高い割合。「日常生活の用務（役所・銀行など）」「通院」「家族・知人等の送迎」については、人口規模が小さくなるほど割合が高まる傾向（1図）。
- 前回同様、移動手段をみると、人口規模が小さい団体ほど、徒歩や公共交通の割合が低く、自家用車の割合が高い傾向（2図）。

1図 日常生活での移動の主目的（複数回答）

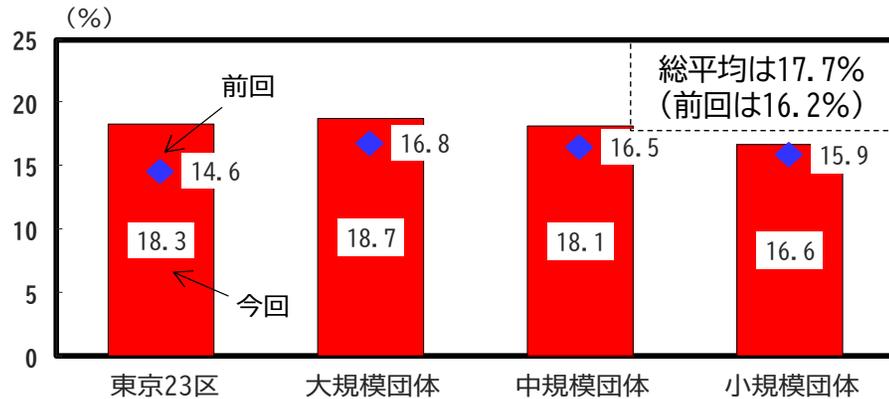


2図 日常生活における移動手段（複数回答）



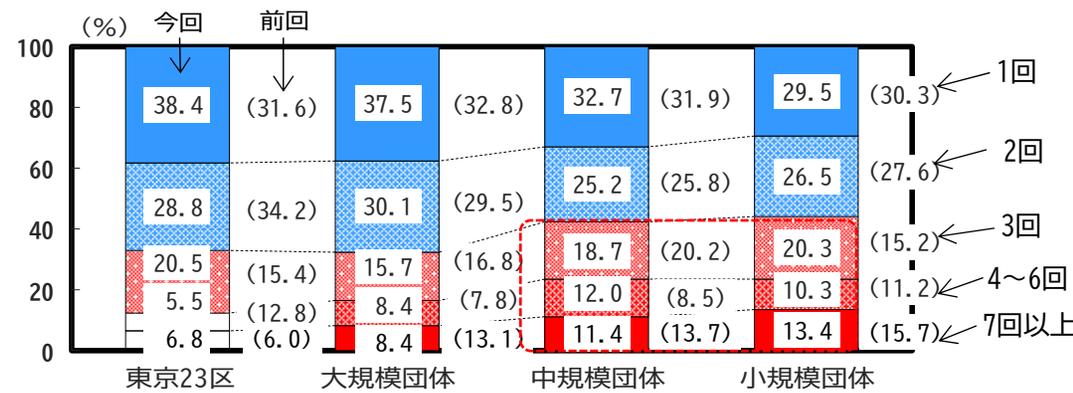
- 移動の足に困った経験がある者の割合は16～19%程度（6人に1人）で、規模による差はさほど見られない。いずれの団体も前回より割合が増加している（1図）。
- 前回同様、移動の足に困った経験を頻度別にみると、人口規模の小さな団体ほど頻度が高まる傾向があり、移動の困難が相対的に深刻である様子が窺える（2図）。
- 年齢別にみると、40歳未満の比較的若い年齢層で移動困難経験の割合が高く、また、75歳以上で割合が上昇（3図）。

1図 移動の足に困った経験がある者の割合



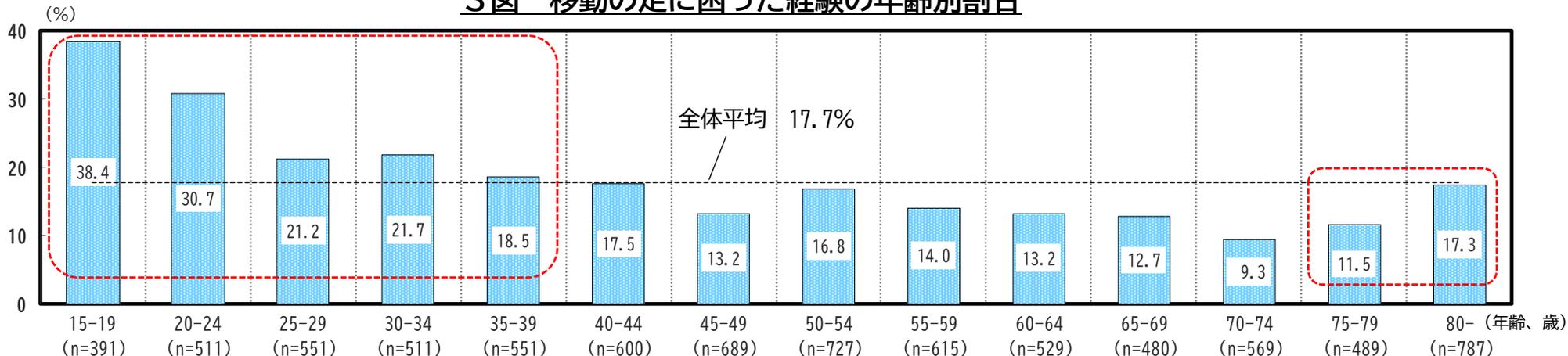
【今回】 n=8,000（東京23区：800、大規模団体：1,600、中規模団体：2,800、小規模団体：2,800）
 【前回】 n=8,000（東京23区：800、大規模団体：1,600、中規模団体：2,800、小規模団体：2,800）

2図 移動の足に困った経験の頻度別割合



【今回】 n=1,417（東京23区：146、大規模団体：299、中規模団体：508、小規模団体：464）
 【前回】 n=1,292（東京23区：117、大規模団体：268、中規模団体：461、小規模団体：446）

3図 移動の足に困った経験の年齢別割合



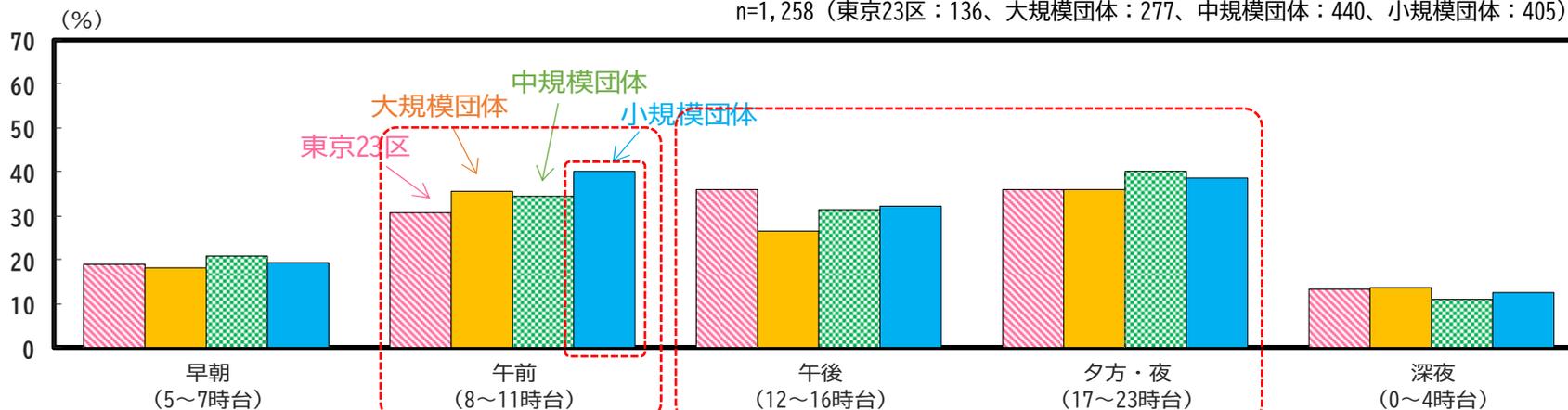
注1) 前回調査は令和7年3月 内閣府「移動実態に関する調査結果」（以下の図表も同様）。

注2) 移動の足に困った経験とは、タクシーがつかまらなかった、バス・鉄道の減便で移動しづらくて困った、15分以上の待ち時間が発生した、遠回りのルートにせざるを得なかった、移動をあきらめた、等のこと。

- 前回同様、移動の足に困った際の時間帯については、全体的に、午前から夕方・夜までの割合が高い。人口規模別に比較すると、午前では小規模団体が最も高い（1図）。
- 前回同様、天候については、全体的に雨天時の割合が高い（2図）。

1図 移動の足に困った際の時間帯（複数回答）

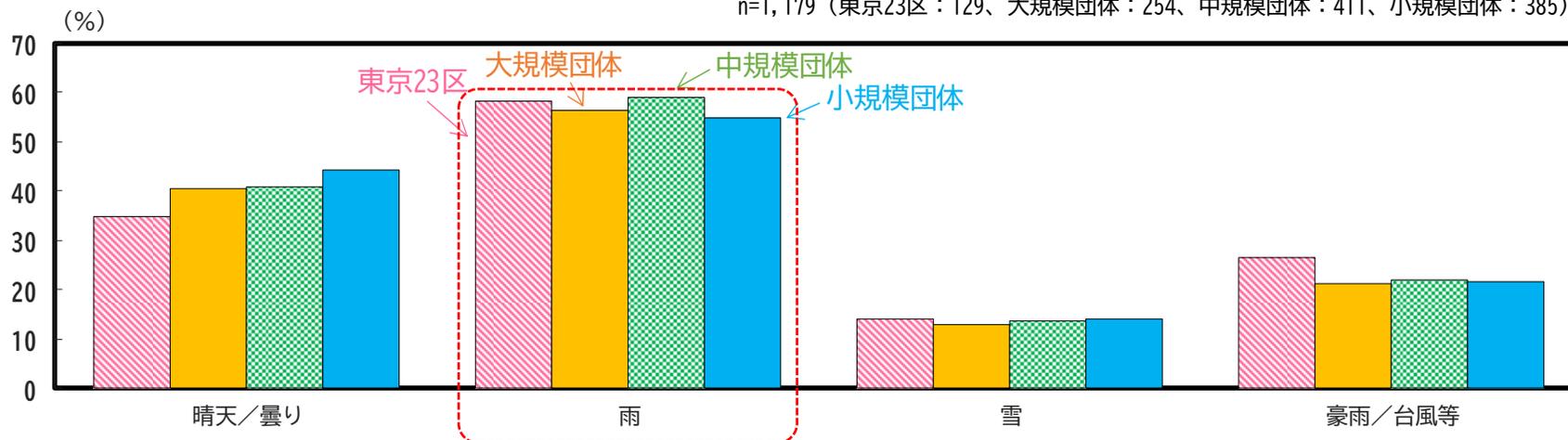
n=1,258（東京23区：136、大規模団体：277、中規模団体：440、小規模団体：405）



注) 移動の足に困った経験があると回答した者に対する割合（覚えていないと回答した者を除く）。

2図 移動の足に困った際の天候（複数回答）

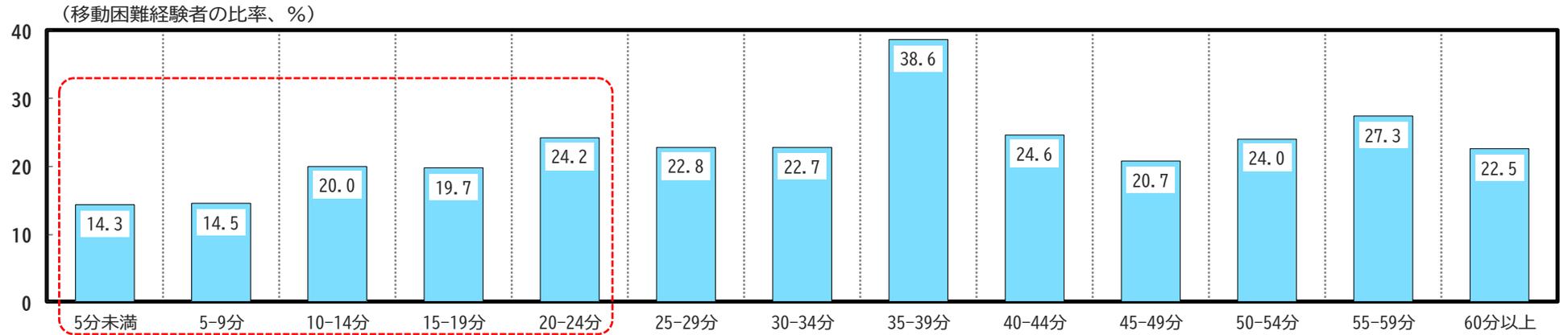
n=1,179（東京23区：129、大規模団体：254、中規模団体：411、小規模団体：385）



注) 移動の足に困った経験があると回答した者に対する割合（覚えていないと回答した者を除く）。

- 前回同様、移動困難経験者の割合は、徒歩25分程度までは、最寄り駅までの距離が遠くなるほど高まる傾向（1図）。
- 前回同様、移動の足に困った経験がある者について、人口規模別にみると、20分以上は規模が小さい団体ほど割合が高い傾向（2図）。

1図 最寄り駅までの距離別にみた移動困難者の割合

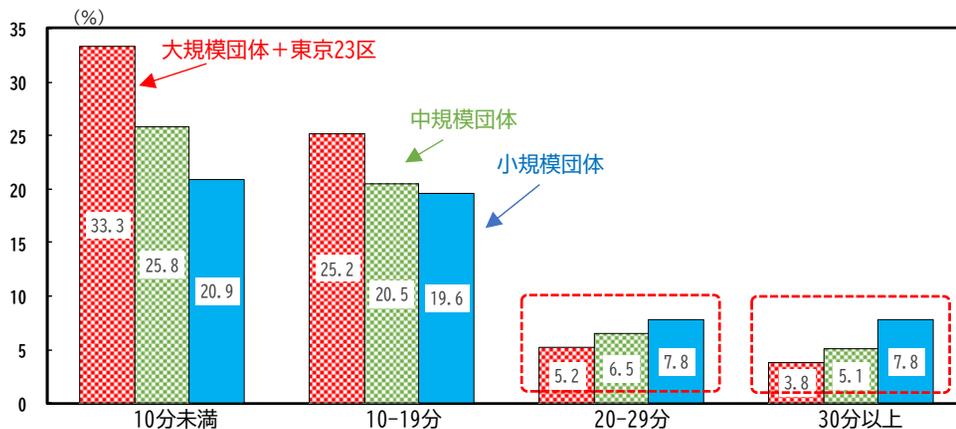


n=8,000 (5分未満: 2,046、5-9分: 2,133、10-14分: 1,669、15-19分: 865、20-24分: 433、25-29分: 237、30-34分: 256、35-39分: 70、40-44分: 57、45-49分: 29、50-54分: 25、55-59分: 11、60分以上: 169)

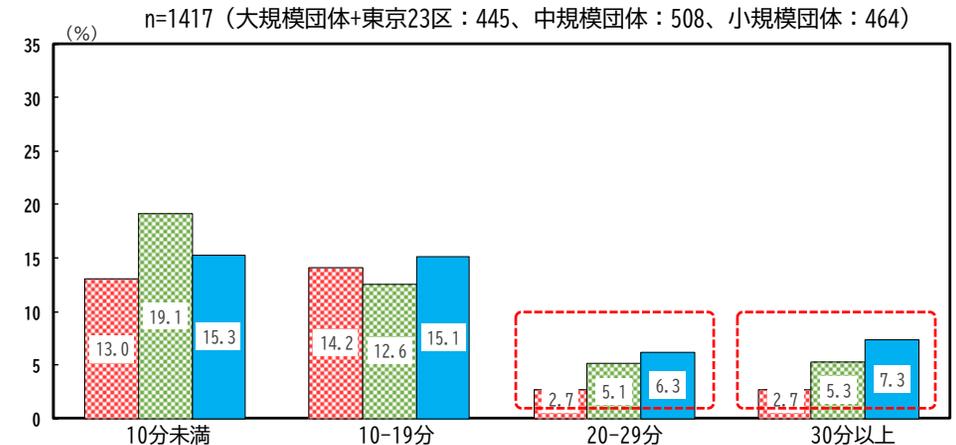
(最寄り駅までの徒歩での所要時間、分)

2図 移動の足に困った経験の頻度別にみた最寄り駅までの徒歩での所要時間

1～2回 (移動困難者に占める割合)

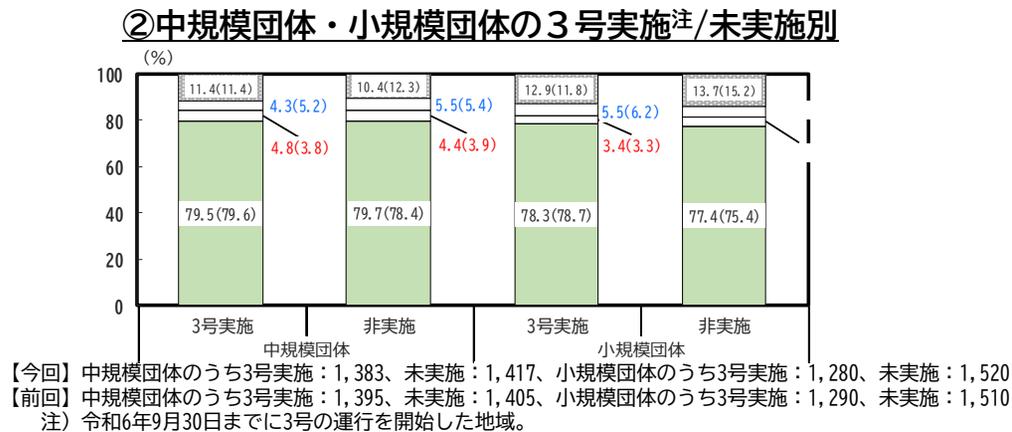
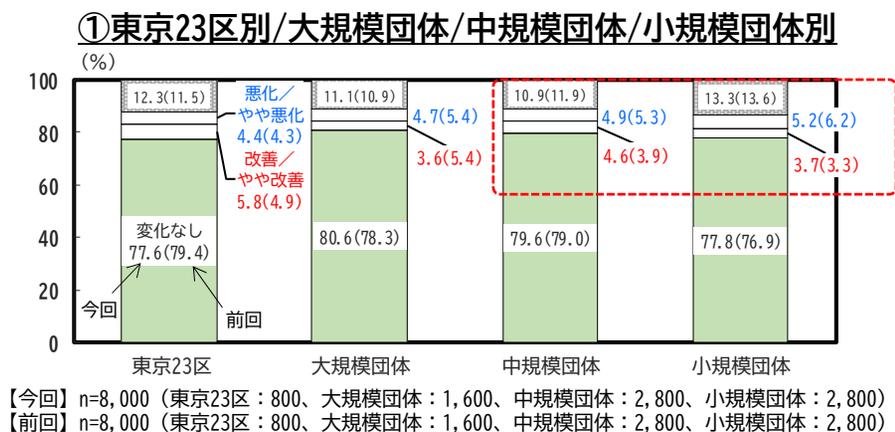


3回以上 (移動困難者に占める割合)

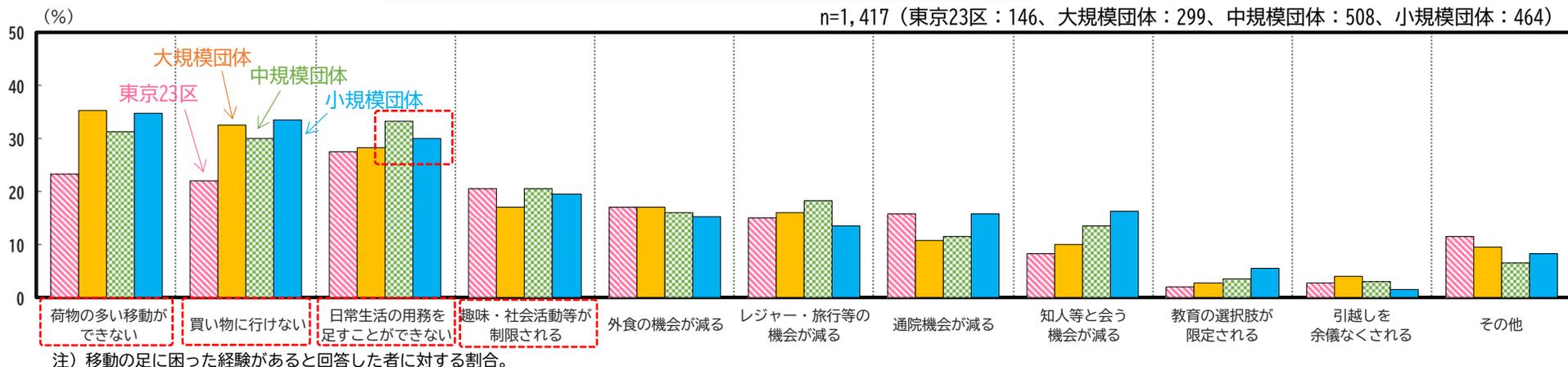


- いずれの団体においても、8割程度の者が「変化なし」と回答。差は小さいものの、中規模・小規模団体では「悪化／やや悪化」が「改善／やや改善」を上回る（1図①）。自家用車活用事業（3号）の実施有無別については、中規模・小規模団体のいずれも実施の有無による差はほとんどみられない（1図②）。
- 前回同様、移動の足の困難による日常生活への影響をみると、「荷物の多い移動ができない」「買い物に行けない」「日常生活の用務を足すことができない」「趣味・社会活動等が制限される」などの割合が高く、移動困難が経済社会活動に影響を及ぼしている様子が窺える。人口規模別には「日常生活の用務を足すことができない」の割合が中小規模団体で相対的に高い（2図）。

1図 3か月前と比べた移動の足不足の状況変化

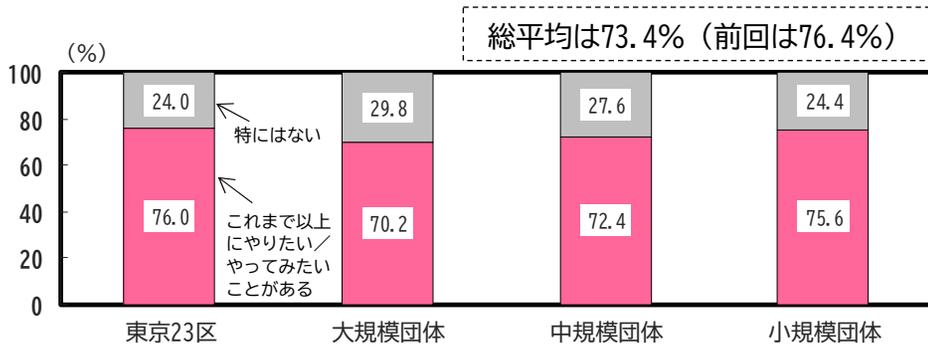


2図 移動の足の困難による日常生活への影響 (複数回答)



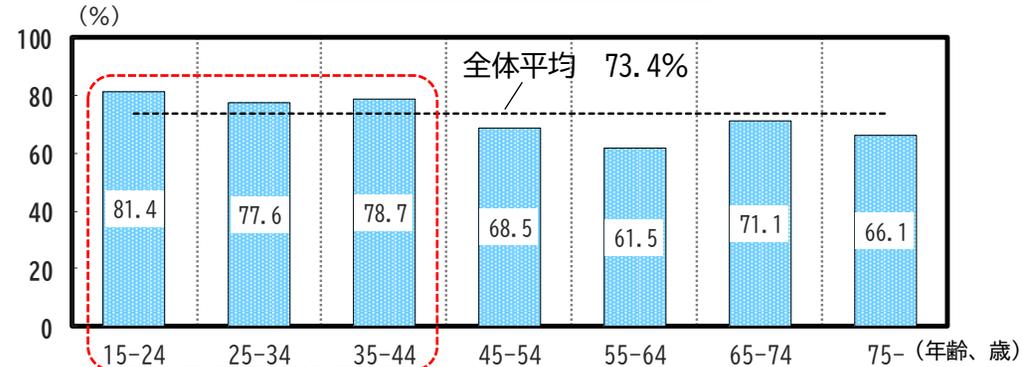
- 移動の不足の状況が改善された場合、これまで以上にやりたい/やってみたいことがあると回答した者は7割超（1図）。年齢別にみると、45歳未満で相対的に意欲が高い（2図）。
- やりたい/やってみたい内容をみると、幅広い活動で高い割合が示されており、不足の改善が経済社会活動の活性化に寄与する可能性がある。年齢別にみると、45歳未満では「趣味・社会活動」「買い物」「レジャー」など、余暇活動への意欲が高い。一方、75歳以上では「健康維持・管理」「買い物」「知人等と会う」の割合が相対的に高い（3図）。

1図 移動の不足の状況が改善した場合、これまで以上にやりたい/やってみたいことがあるか



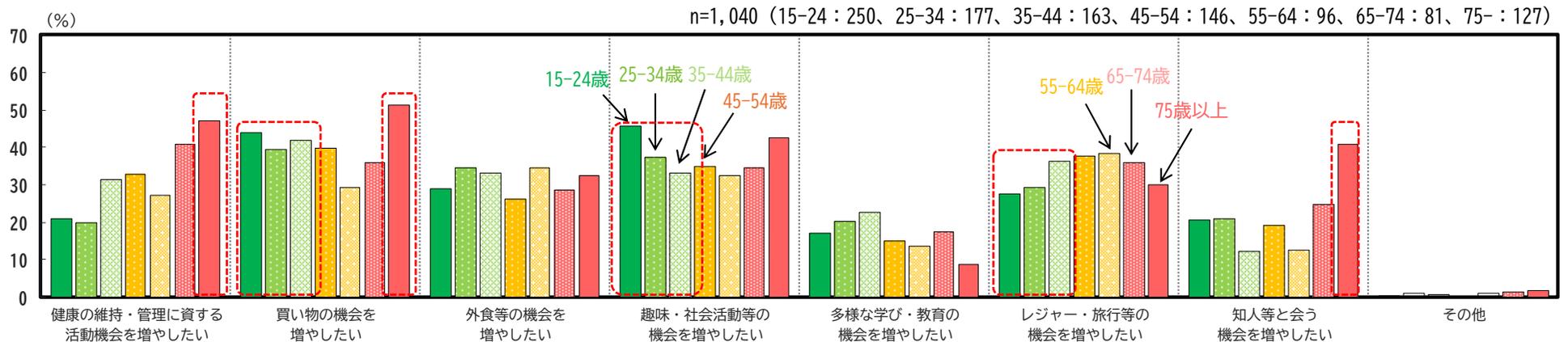
n=1,417 (東京23区: 146、大規模団体: 299、中規模団体: 508、小規模団体: 464)
注) 移動の足に困った経験があると回答した者に対する割合。

2図 これまで以上にやりたい/やってみたいことがあると回答した者の年齢別割合



n=1,417 (15-24: 307、25-34: 228、35-44: 207、45-54: 213、55-64: 156、65-74: 114、75-: 192)
注) 移動の足に困った経験があると回答した者に対する割合。

3図 年齢別にみたこれまで以上にやりたい・やってみたいことの内容 (複数回答)

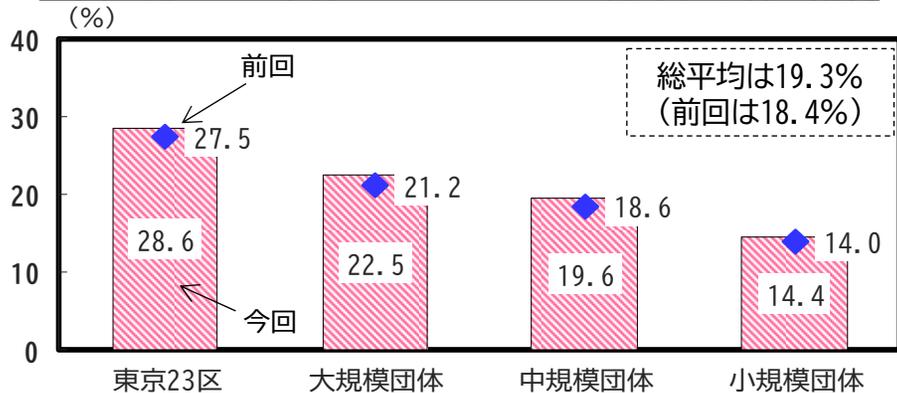


注) 移動の足に困った経験があると回答した者に対する割合(特にないと回答した者を除く)。

1 か月あたりでタクシーを利用する頻度/利用時の困った経験

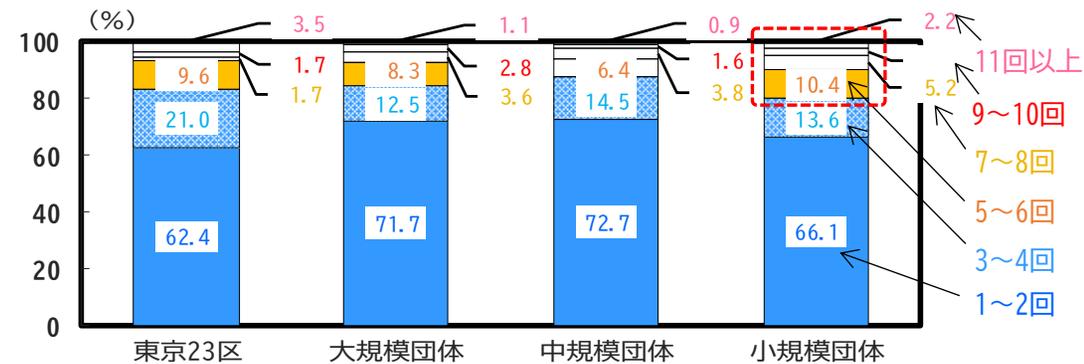
- ▶ タクシー利用者の割合は、人口規模が大きい団体ほど高い（1図）。一方、利用者の頻度別割合をみると、月に5回以上利用する者の割合が、小規模団体で高い（2図）。
- ▶ 全ての人口規模において、タクシーを利用する者の5割以上は、利用しようとした際に困った経験があると回答。東京23区で最も高く、次いで中規模団体が高い割合（3図）。困った経験がある者の割合を年齢別にみると、45歳未満の年齢層で相対的に高い割合（4図）。

1図 月に1~2回以上はタクシーを利用する者の割合



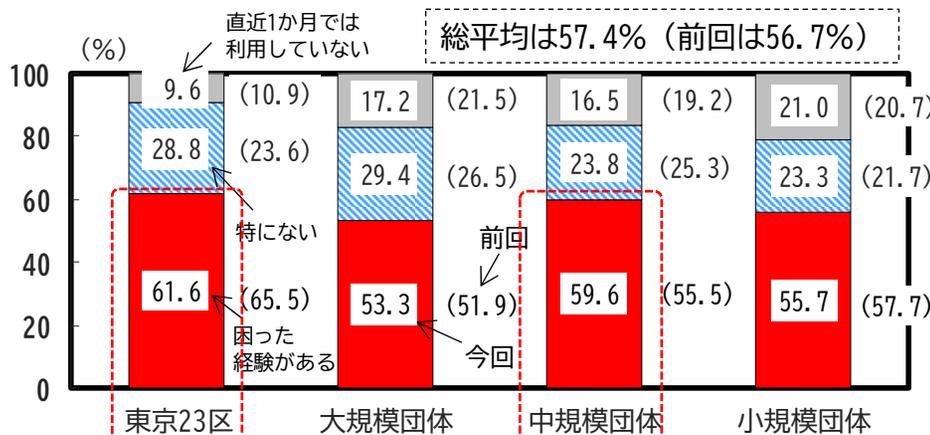
【今回】 n=8,000 (東京23区: 800、大規模団体: 1,600、中規模団体: 2,800、小規模団体: 2,800)
 【前回】 n=8,000 (東京23区: 800、大規模団体: 1,600、中規模団体: 2,800、小規模団体: 2,800)

2図 タクシー利用者の利用頻度別の割合



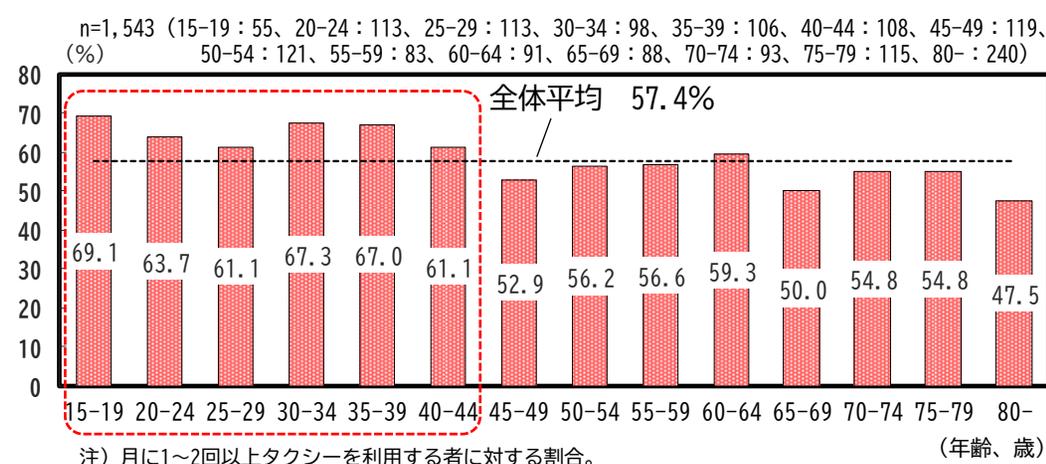
n=1,543 (東京23区: 229、大規模団体: 360、中規模団体: 550、小規模団体: 404)
 注) 月に1~2回以上タクシーを利用する者に対する割合。

3図 タクシー利用時の困った経験の有無



【今回】 n=1,543 (東京23区: 229、大規模団体: 360、中規模団体: 550、小規模団体: 404)
 【前回】 n=1,472 (東京23区: 220、大規模団体: 339、中規模団体: 521、小規模団体: 392)
 注) 月に1~2回以上タクシーを利用する者に対する割合。

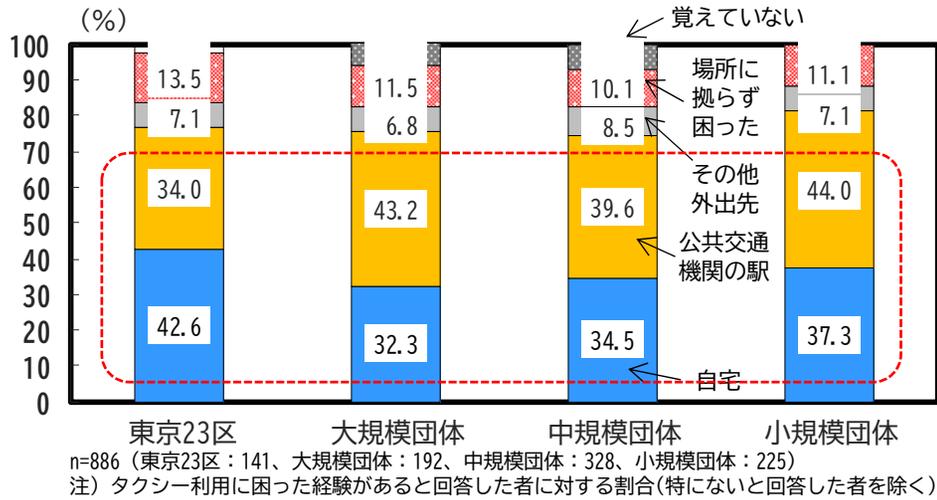
4図 年齢別にみたタクシー利用時に困った経験がある者の割合



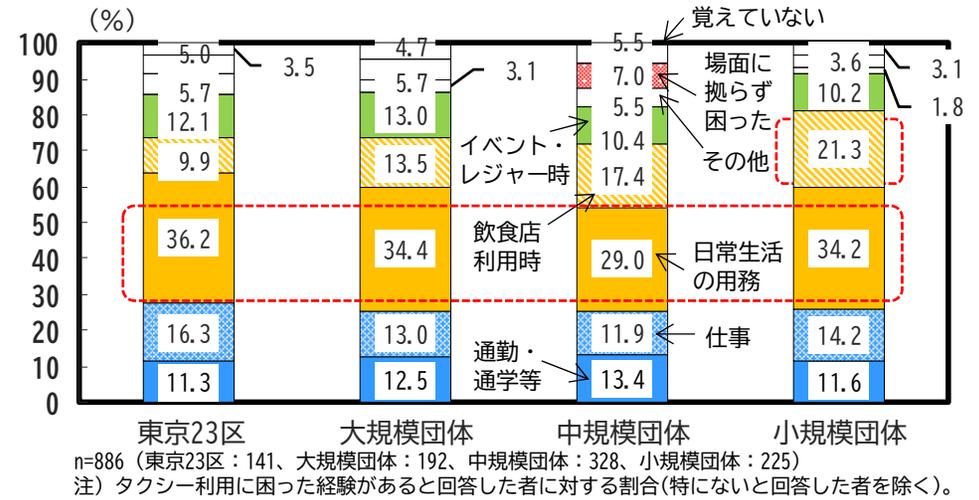
注) 月に1~2回以上タクシーを利用する者に対する割合。

- タクシー利用で困った際の場所は、いずれの規模でも「自宅」「公共交通機関の駅」の割合が高い傾向（1図）。困った際の場面は、いずれの規模でも「日常生活の用務」が最も高いが、小規模団体では「飲食店利用時」も相対的に高い（2図）。
- 困った際の時間帯は、いずれの規模でも「夕方・夜」「午後」が高い（3図）。困った際の天候は、人口規模が大きい団体は「雨／雪」、小さい団体は「晴天／曇り」の割合が高い傾向（4図）。

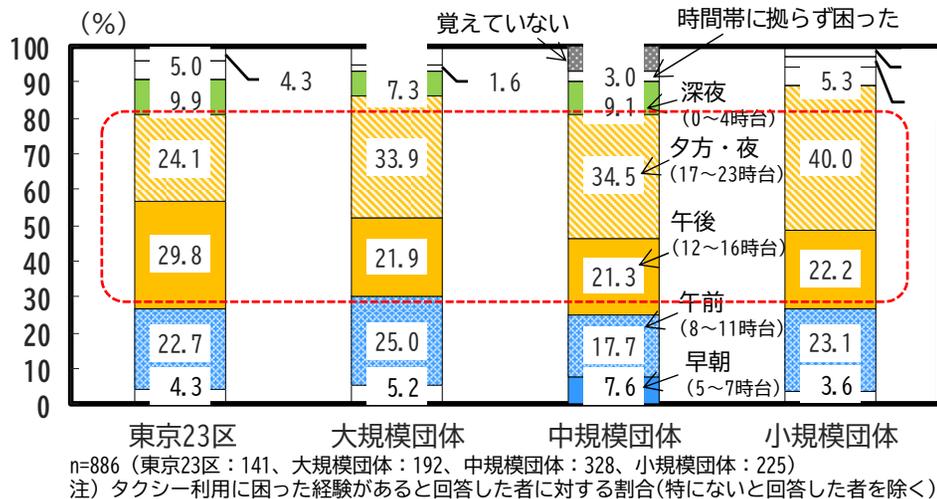
1図 タクシー利用で困った際の場所



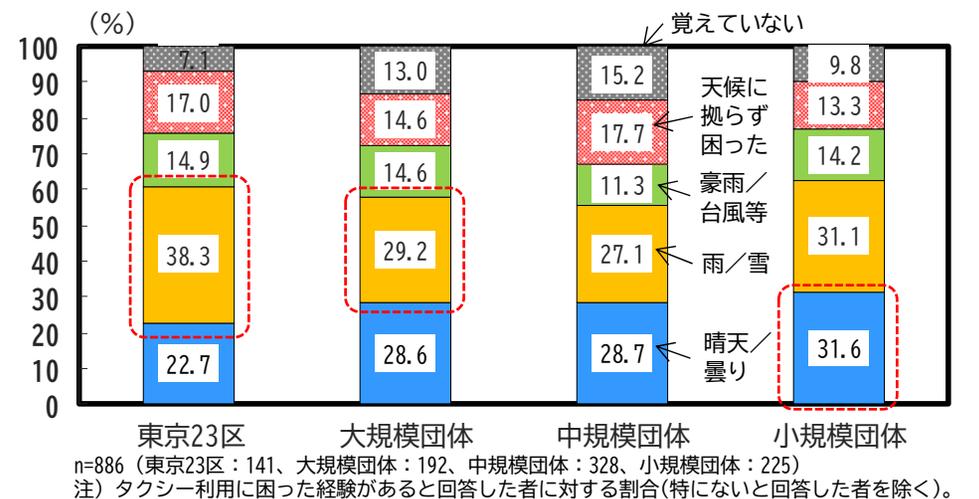
2図 タクシー利用で困った際の場面



3図 タクシー利用で困った際の時間帯

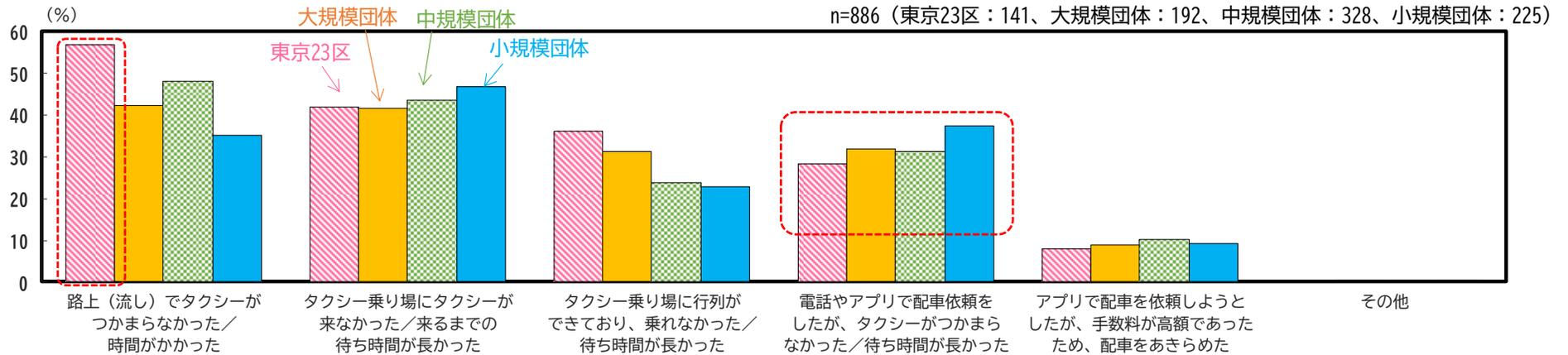


4図 タクシー利用で困った際の天候



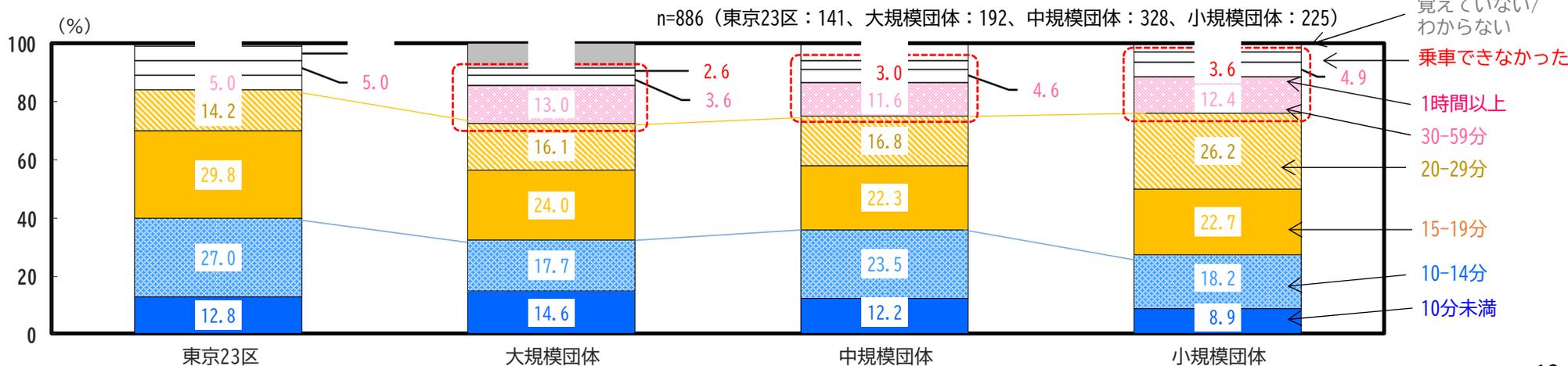
- タクシー利用時の困った経験の内容をみると、東京23区では「路上（流し）」の割合が高く、規模の小さい団体ほど乗り場や配車依頼で「タクシーがつかまらなかった/待ち時間が長かった」の割合が高い傾向（1図）。
- タクシー利用時に困難を経験した者のうち乗車までにかかった時間をみると、人口規模が小さい団体ほど乗車までに時間を要する傾向。特に、大規模・中規模・小規模団体では、30分以上を要した又は乗車できなかった割合が2割程度（2図）。

1図 タクシー利用時に困った経験の内容（複数回答）



注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合(特にないと回答した者を除く)。

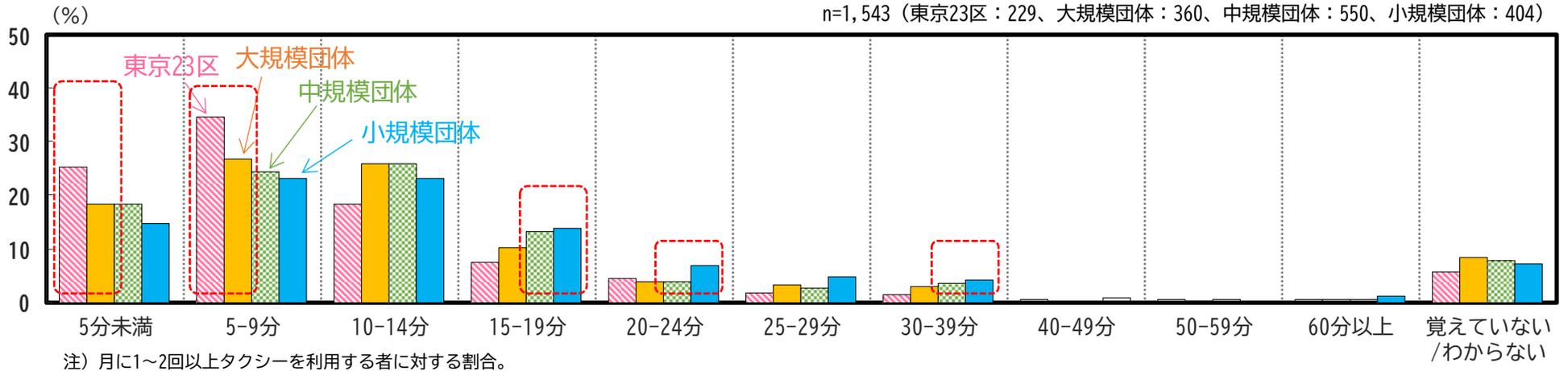
2図 タクシー利用で困った際、乗車までに要した時間



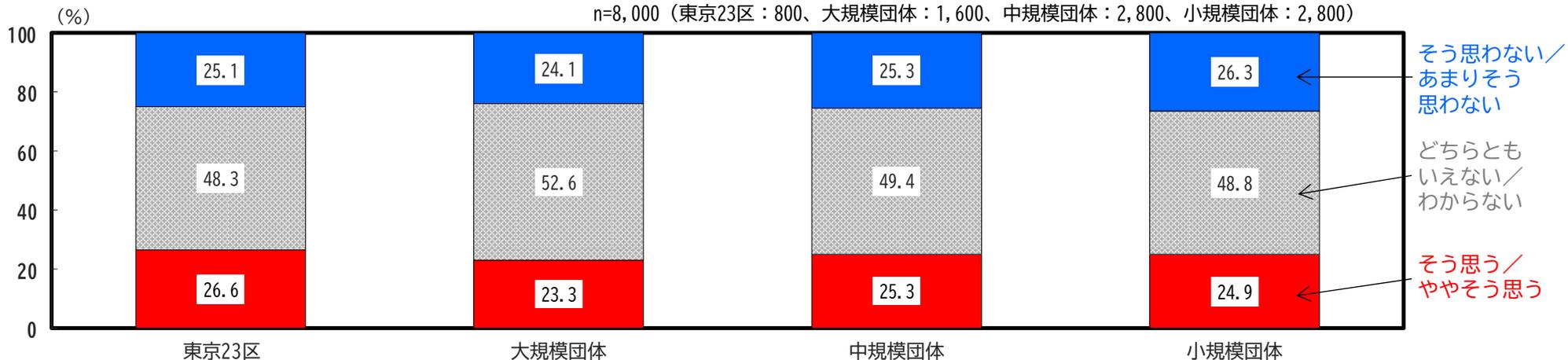
注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合(特にないと回答した者を除く)。

- 前回同様、タクシーの乗車までにかかる時間をみると、人口規模が大きい団体ほど10分未満の割合が高く、人口規模が小さい団体ほど15分以上の割合が高くなる傾向（1図）。
- スマホで簡単に手配できる新たな移動サービスが提供された場合の移動のしやすさへの改善期待は、いずれの団体も5割程度が「どちらともいえない/わからない」。「そう/やや思う」と「そう/あまり思わない」はそれぞれ2割半ば程度で拮抗。人口規模による差はほとんどみられない（2図）。

1図 タクシーの乗車までにかかる時間



2図 スマホで簡単に手配できる新たな移動サービスの提供で、移動しやすさが改善されると思うか



※下記コメントは、回答いただいた自由回答を要約したものを記載。



大規模団体
80歳以上

突然の豪雨で傘が無い中、タクシーも無く1時間以上も待った。



大規模団体
65～69歳

夜遅くはバスの本数が少なく、帰宅するのにバス停でかなり待った。



中規模団体
55～59歳

田舎なのでタクシーが少なく、乗れないことが多い。



東京23区
50～54歳

大雨や台風で電車が運休になると、タクシー乗り場に人が殺到し全く利用できなかった。その日は帰れずにカプセルホテルに宿泊した。



中規模団体
80歳以上

早朝の交通機関がないので、旅行などにでかけるときに困ることが多い。



東京23区
35～39歳

バスの本数が少なすぎるので、外出の時間を気にしなければならず楽しめなかった。



小規模団体
15～19歳

夜遅くになると駅にタクシーがおらず、遅くまで遊べなかった。



小規模団体
45～49歳

バスが減便されたことで最終バスが早くなった。それに加えタクシーも少なく、待ち時間が長い。



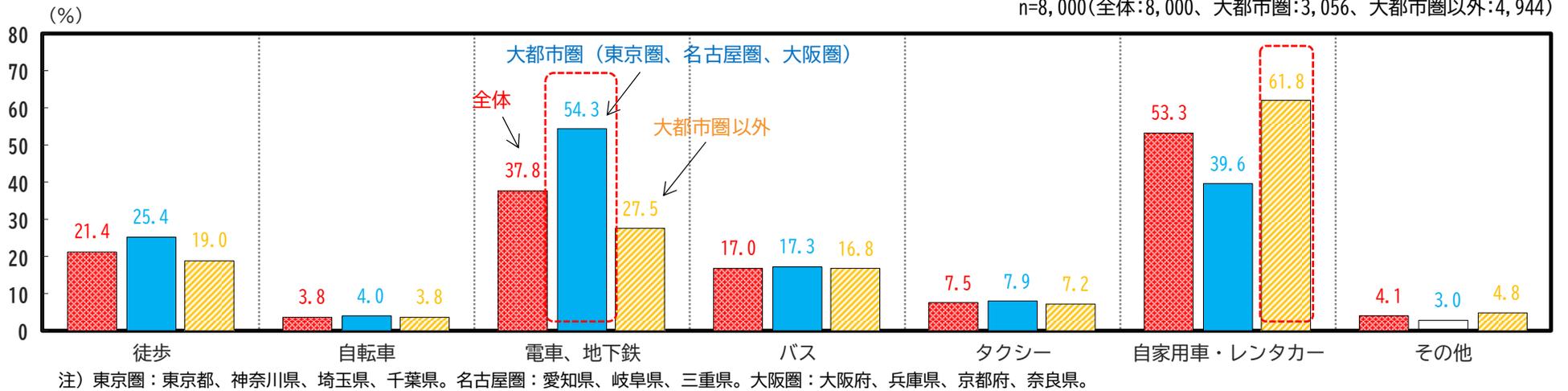
複数の方の回答

・バス、鉄道の本数が少ない ・バス、鉄道の遅延 ・バスの減便 ・自家用車や自転車の不具合により移動ができない ・深夜早朝の移動が困難（公共交通無し・タクシーが捕まらない） ・タクシーの手配が困難 ・悪天候時に移動できない など

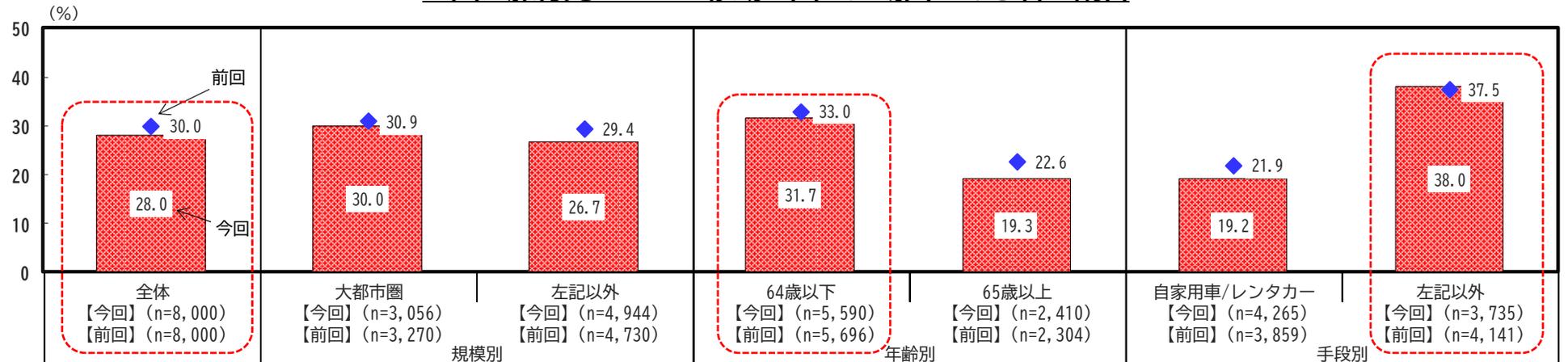
2 旅行者アンケート結果

- 前回同様、旅行時の移動手段は、大都市圏（東京圏、名古屋圏、大阪圏）では電車・地下鉄など公共交通の割合が相対的に高い。一方、大都市圏以外では自家用車・レンタカーの割合が高い（1図）。
- 前回同様、旅行先において移動に困った場面がある者は、全体の3割（3～4人に1人）。規模別で見ると大きな差はないが、年齢別では64歳以下、移動手段別では自家用車・レンタカー以外の者の割合が相対的に高い（2図）。

1図 旅行先での移動手段（複数回答）

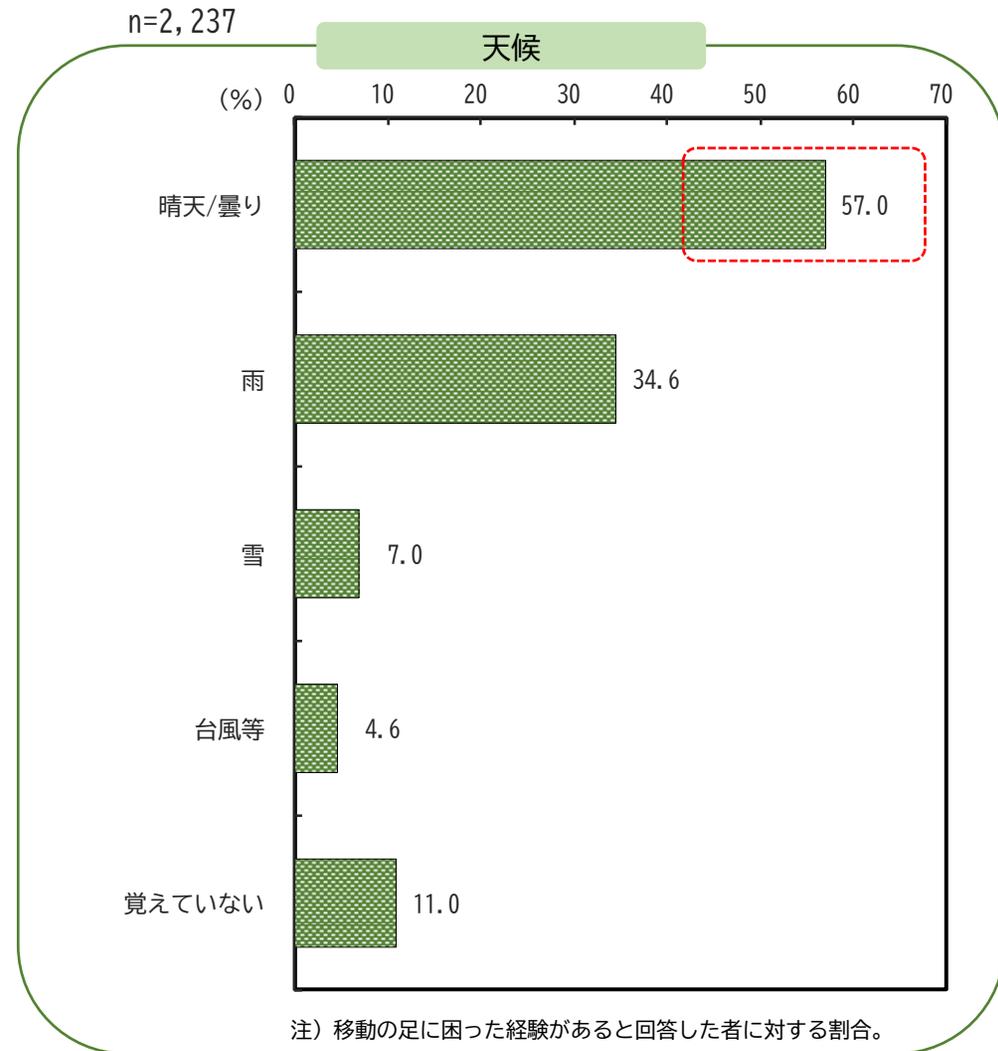
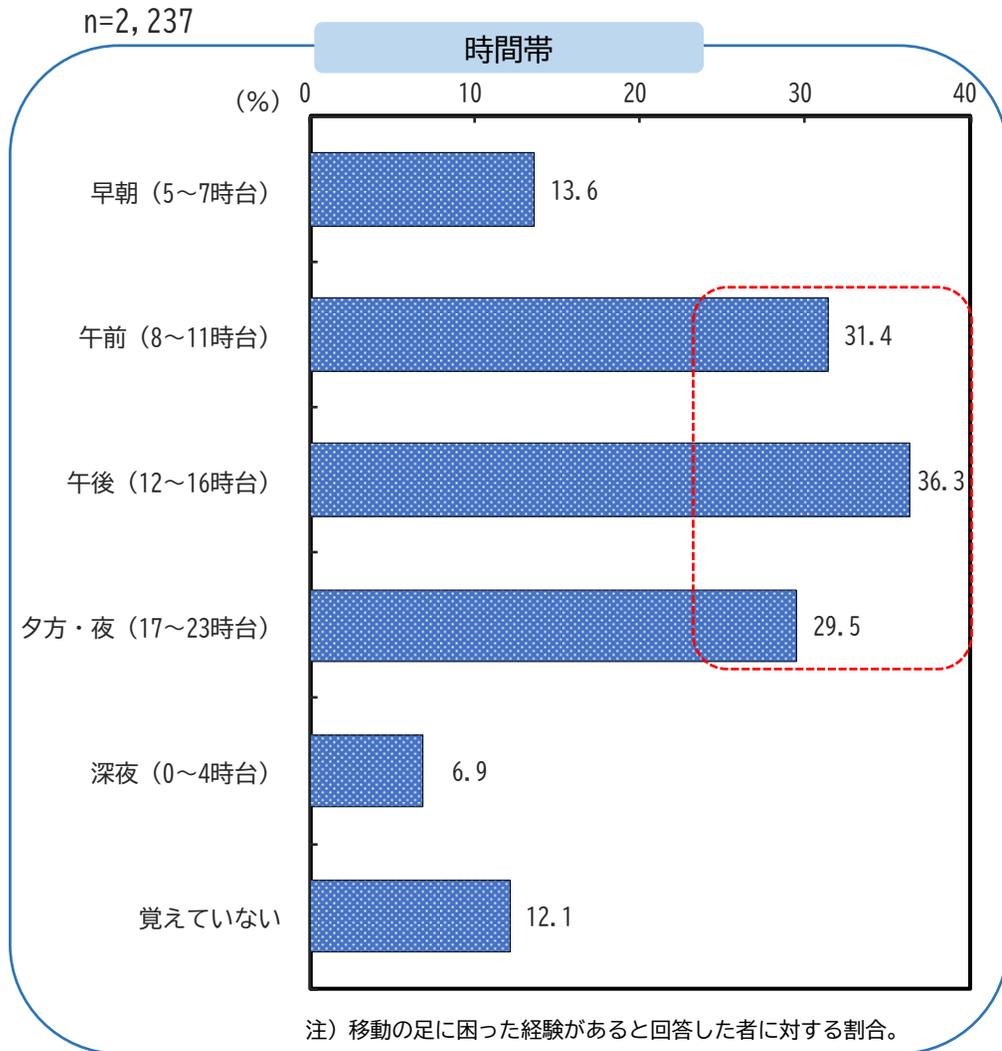


2図 旅行先において移動に困った場面がある者の割合



- 前回同様、旅行時に移動に困った時間帯については、午前から夕方・夜までの割合が高い（左図）。
- 天候については、晴天/曇り時の割合が6割弱と最も高く、「雨」、「雪」を大きく上回る（右図）。

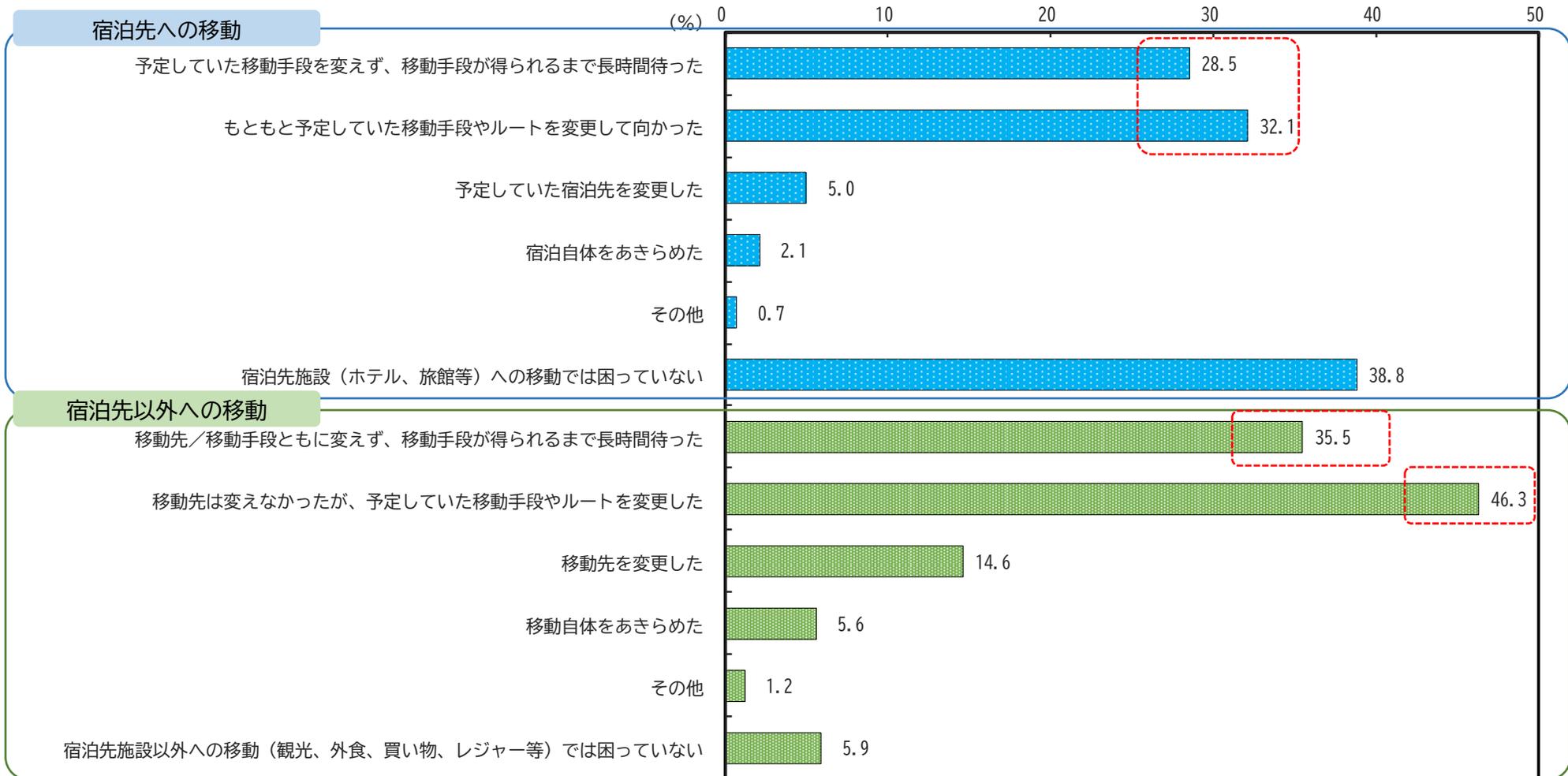
図 旅行先で移動に困った際の、時間帯/天候（複数回答）



- 前回同様、宿泊先への移動の場合には、「移動手段が得られるまで長時間待った」、「移動手段やルートを変更して向かった」とする旅行者はそれぞれ全体の3割程度（上図）。
- 宿泊先以外への移動の場合には、「移動手段やルート」の変更は4割半ば。次いで、「移動手段が得られるまで長時間待った」とする者の割合が高い（下図）。

図 旅行先で移動に困った際の、移動先・移動手段などについての対応（複数回答）

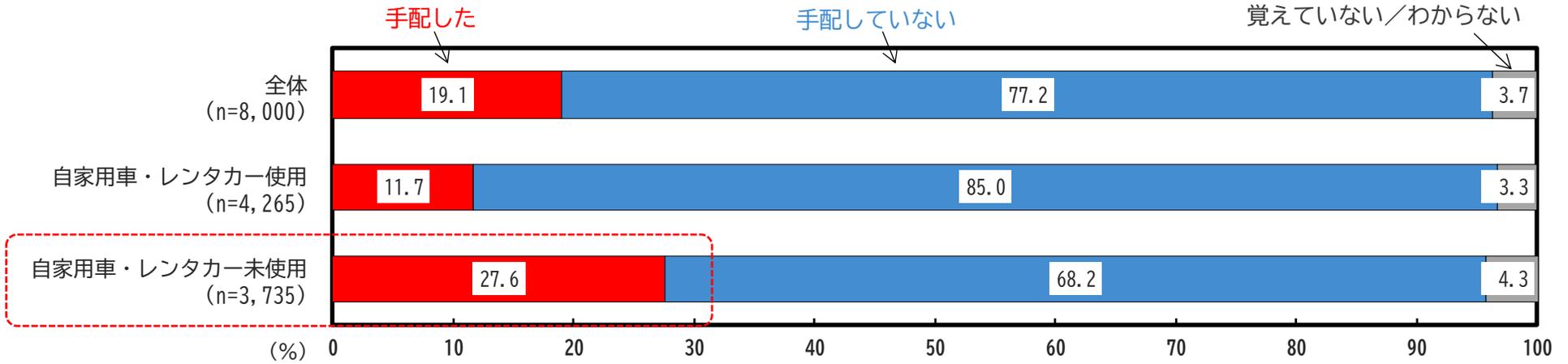
n=2,237



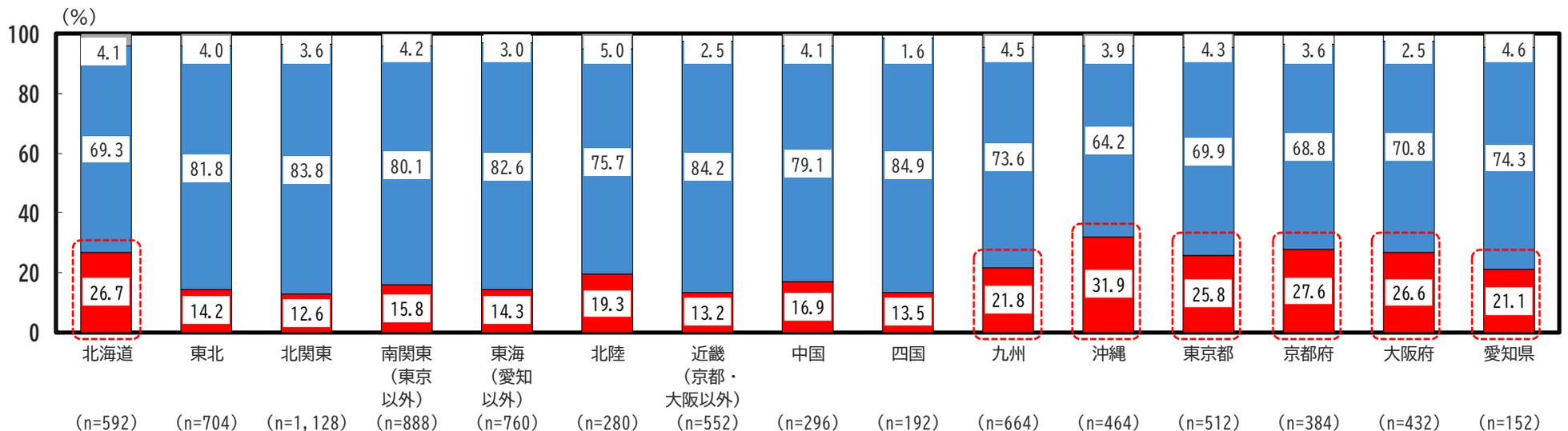
注）移動の足に困った経験があると回答した者に対する割合。

- 前回同様、旅行先におけるタクシー利用者の割合は、自家用車・レンタカーを用いていない方が、相対的に高い（1図）。
- 地域別にみると、沖縄が最も割合が高く、そのほか北海道、九州、東京都、京都府、大阪府、愛知県でのタクシー利用率が、相対的に高い（2図）。

1図 旅行先におけるタクシー手配の有無

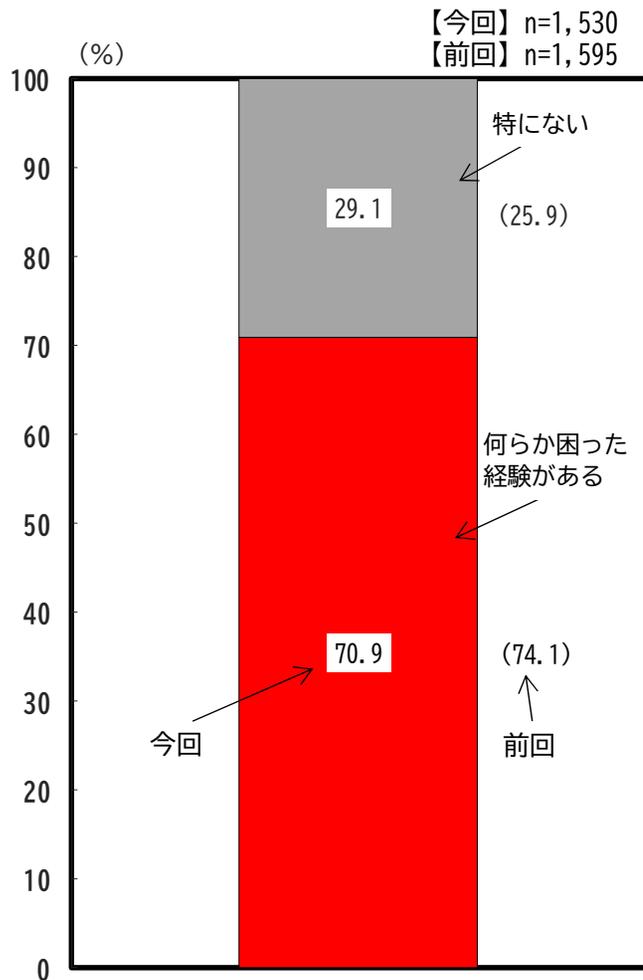


2図 15地域・都市別の旅行先におけるタクシー手配の有無



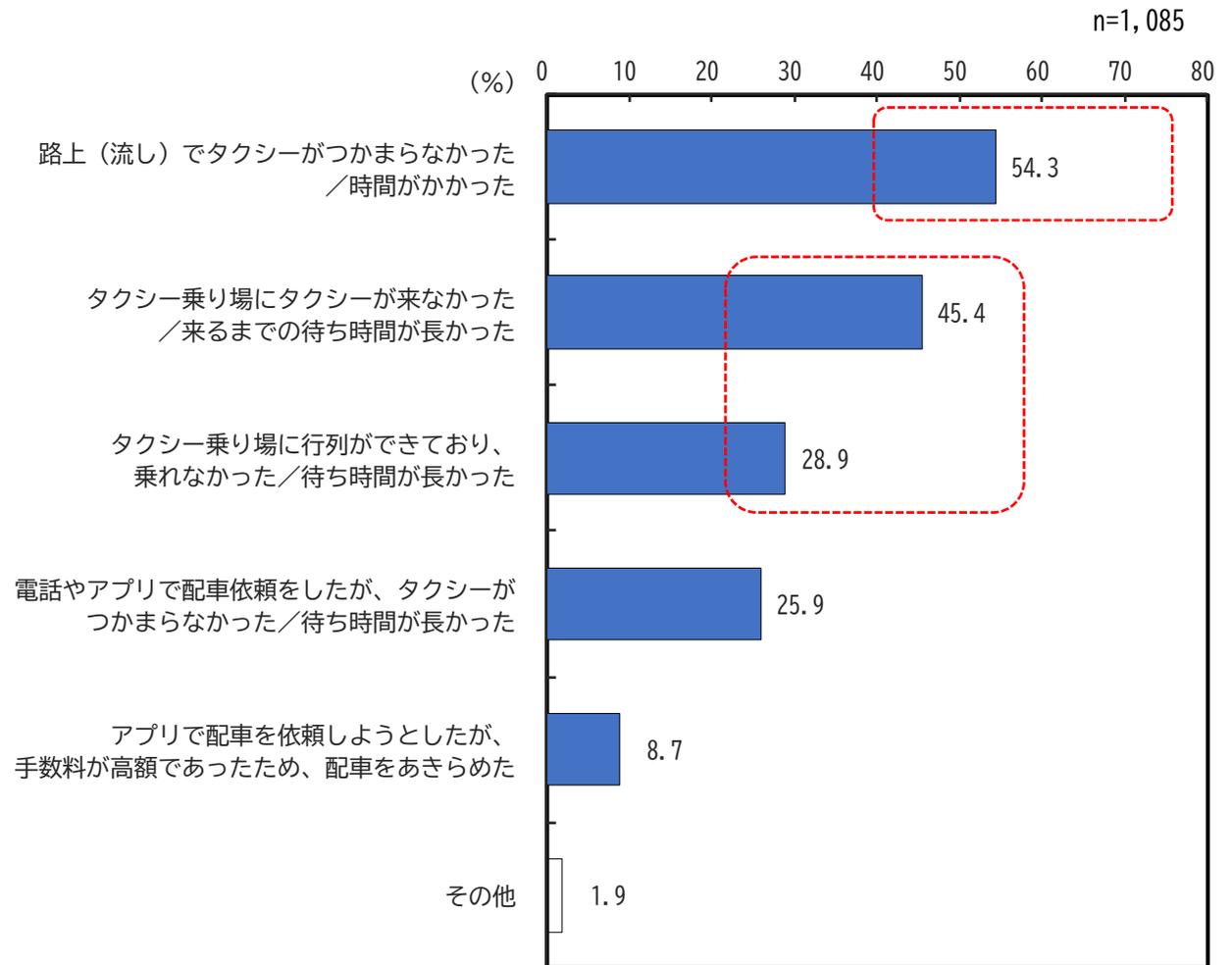
- 旅行先においてタクシーを利用する者の7割は、利用しようとした際に困った経験があると回答（1図）。
- タクシー利用時の困った経験の内容をみると、「路上（流し）」の割合が5割半ばと最も高く、次いでタクシー乗り場関連の困難経験が高い（2図）。

1図 旅行先でタクシー手配時に困った経験の有無



注) 旅行先でタクシー手配をしたと回答した者に対する割合。

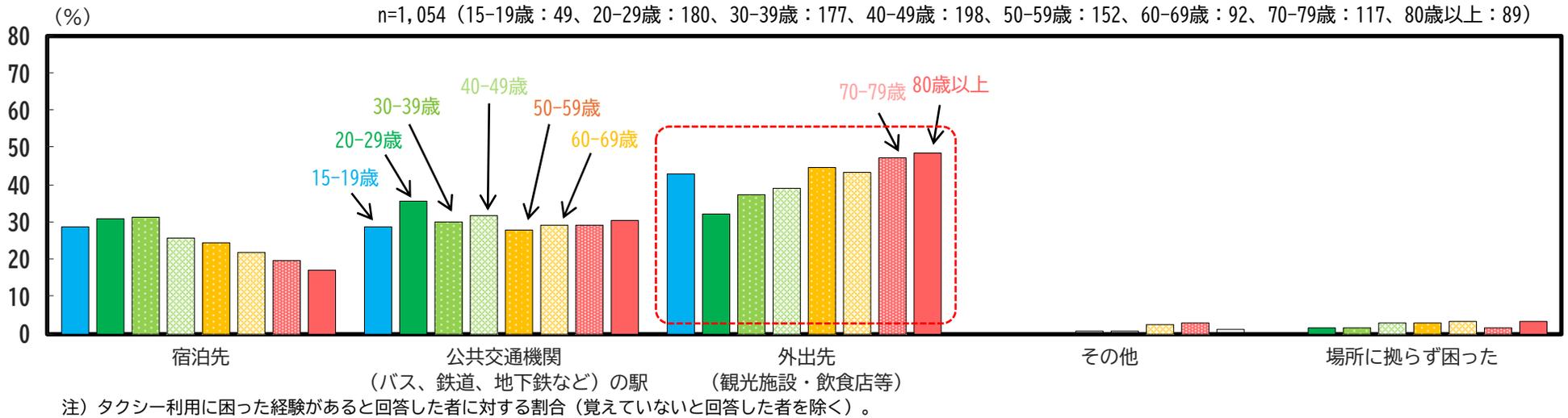
2図 タクシー手配時に困った経験の内容（複数回答）



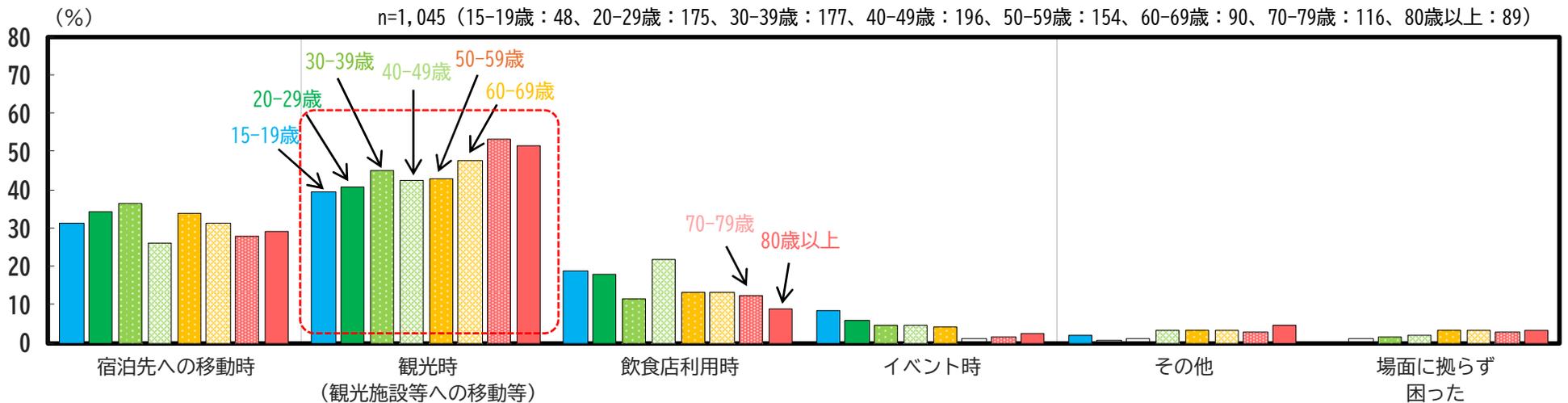
注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合。

- タクシー手配で困った場所については、「外出先」の割合が相対的に高く、30代以上でより高まる傾向（1図）。
- 場面については、「観光時」が相対的に高く、かつ、60代以上で割合が高まる傾向（2図）。

1図 タクシー手配で困った際の場所

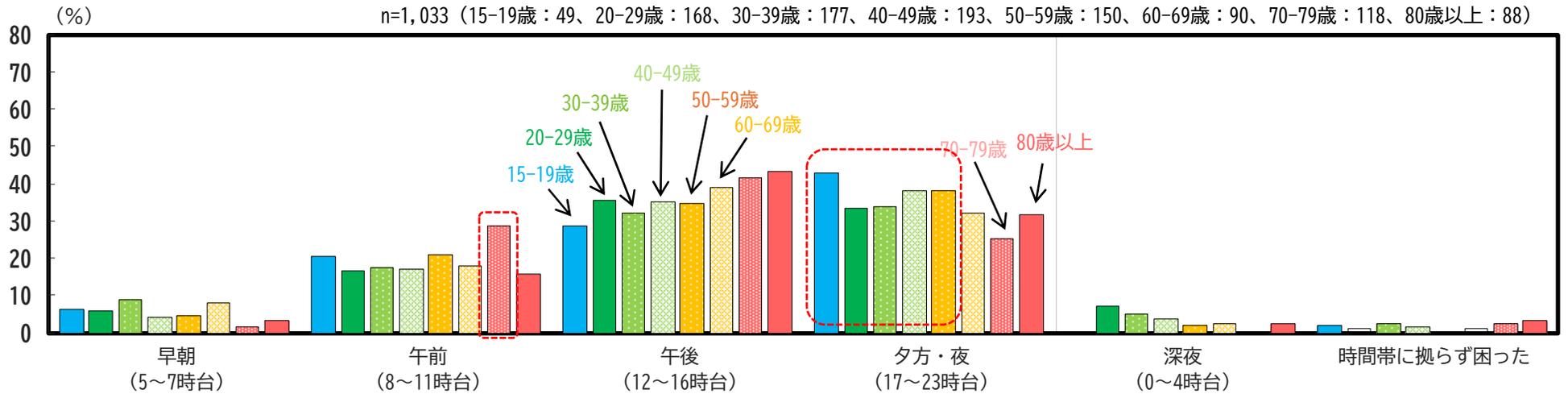


2図 タクシー手配で困った際の場面



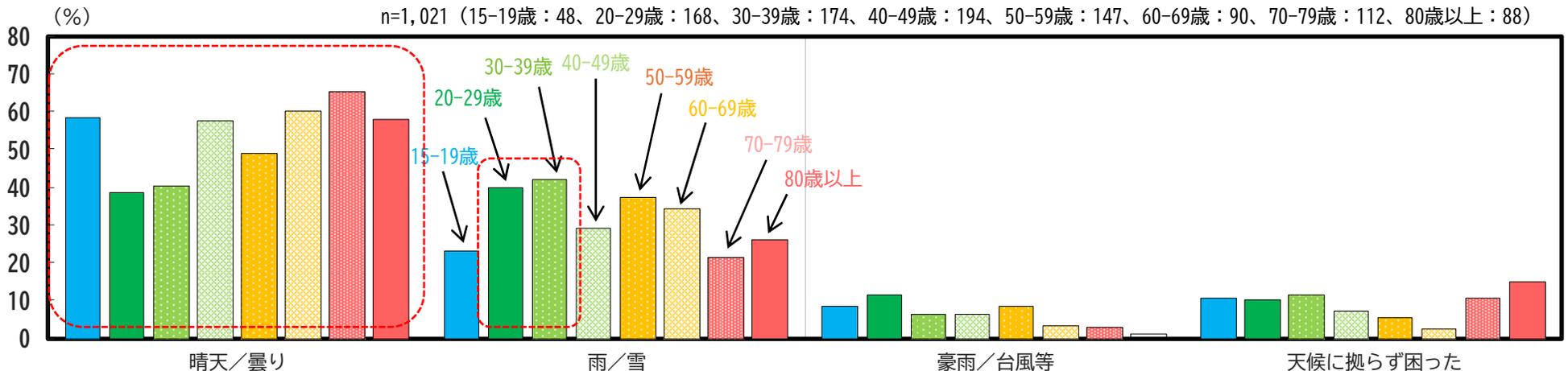
- 移動の足に困った際の時間帯は「午前」は70代、「夕方・夜」は年齢が若い層の割合が相対的に高い（1図）。
- 天候では、「晴天／曇り」が相対的に高いが、20～30代では「雨／雪」の割合も高い（2図）。

1図 タクシー手配で困った際の時間帯



注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合 (覚えていないと回答した者を除く)。

2図 タクシー手配で困った際の天候

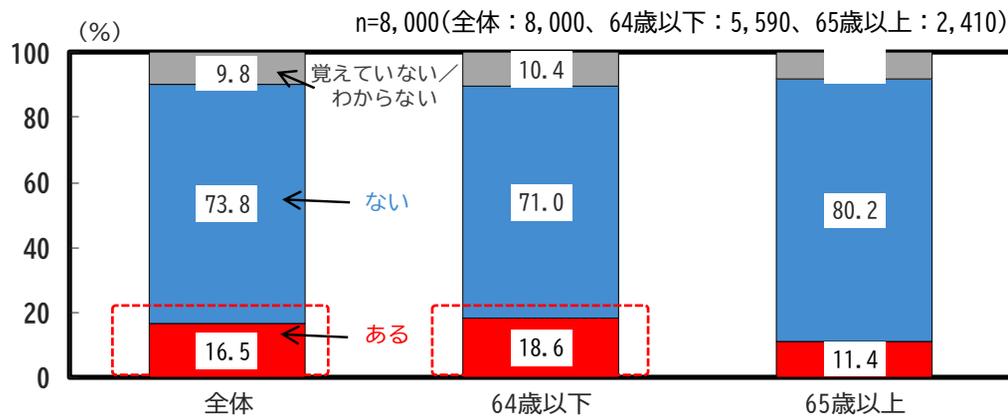


注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合 (覚えていないと回答した者を除く)。

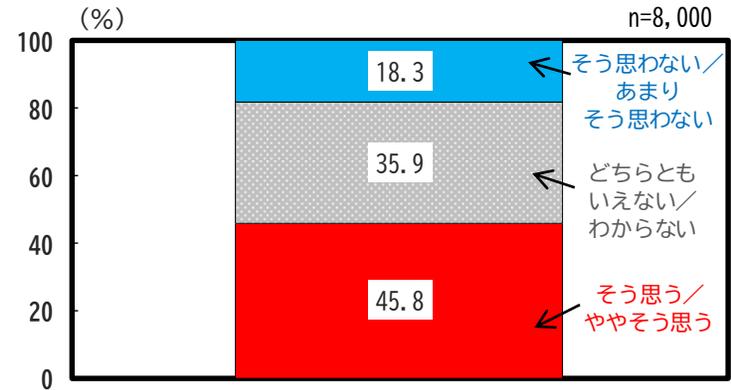
移動の不足を理由に旅行先候補から外した地域/新たな移動サービスへの期待

- 旅行者の1割半ばが、旅行先を選ぶ際、移動の不足が見込まれることを理由に候補地から外した地域があると回答。65歳以上と比較して、64歳以下の世代で高い（1図）。
- 旅行先において、スマホ等で簡単に手配できる移動サービスが今後新たに提供された場合、移動のしやすさが改善されると思う者の割合は全体の4割半ばであり、「そう思わない/あまりそう思わない」の2割弱を大きく上回る（2図）。
- 年齢別にみると、10～30代において、相対的に期待感が大きい（3図）。

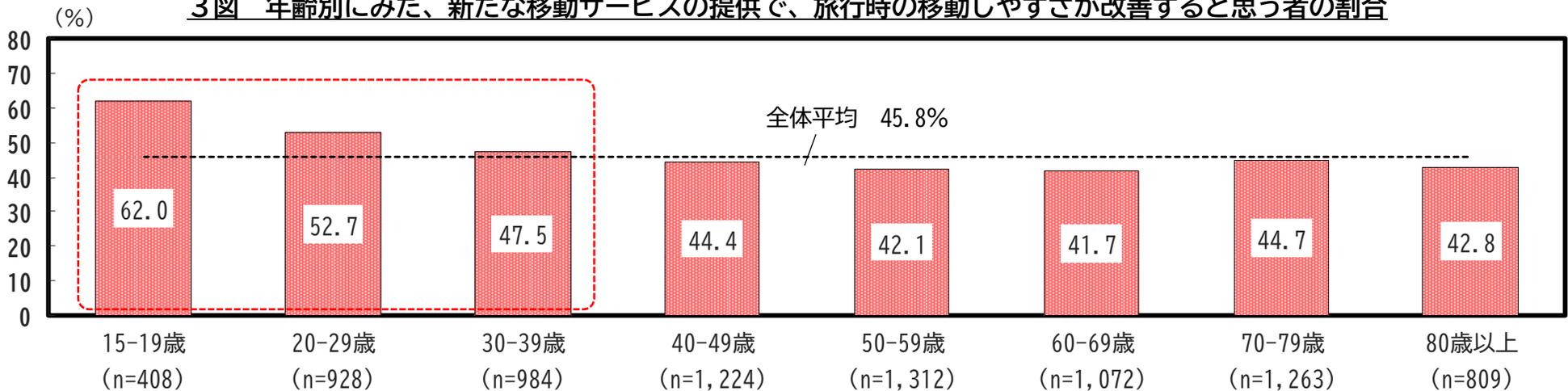
1図 過去1年以内に、旅行先を選ぶ際、当該地域での不足が見込まれることを理由に旅行先の候補から外した地域があるか



2図 スマホ等で簡単に手配できる移動サービスが今後新たに提供された場合、旅行先での移動のしやすさが改善されると思うか



3図 年齢別にみた、新たな移動サービスの提供で、旅行時の移動しやすさが改善すると思う者の割合



※下記コメントは、回答いただいた自由回答を要約したものを記載。



北関東
70～79歳

路線バスの便が削減されていた。



大阪府
40～49歳

渋滞に巻き込まれて、予定が大幅にずれた。



南関東（東京以外）
20～29歳

予定していたバスなどで運休や遅延があった。



中国
20～29歳

公共交通機関の待ち時間が無駄に感じた。



沖縄
40～49歳

天候不良で駅に足止めされて数時間待つたことがある。



南関東（東京以外）
70～79歳

外国の団体の観光客の方々を避けるために、電車を何本か見送った。



東京都
40～49歳

大雨の影響で電車のダイヤは乱れ、タクシーもつかまらない。



北陸
80歳以上

タクシー乗り場があるが、長時間待たされた。



複数の方の回答

・バス、鉄道の本数が少ない（減便、曜日による運休がある）
・待ち時間が長すぎる
・バス、鉄道の遅延
・タクシーがつかまらない
・バス、鉄道の混雑、道路の渋滞
・悪天候による遅延や運休
・駐車場問題 など